

森林政策

愛知県の森林・林業政策

日時：平成22年9月23日（木） 10:00～12:00

講師：井桁 正人（愛知県農林水産部技監）

概況



1 森林・林業に対する追い風(意識の向上)と逆風(生産額等の低下):愛知県は、県土の43%が森林であり、中でも人工林の割合が多い(64%)。また、戦後、天然林の減少に伴う人工林の増加により、木材・木製品が発達した。しかし現在、林業に携わる者が減っているのが現状である。また、最近では、私たちの生活そのものが変化したため、里山を使わなくなり、里山風景の崩壊が起こっている。これから、林業の収益性を高め、自国の木を使うことや生産コスト削減、人件費を下げ、機械化する等の政策を打つ必要がある。意識すべき点と問題は下記のとおりである:

- ① 山地災害防止機能向上
- ② 洪水防止、水源確保
- ③ 森林レクリエーション
- ④ 生物多様性を育む森林
- ⑤ 地球温暖化防止(二酸化炭素の吸収)対策
- ⑥ 産業としての林業と循環型社会形成
- ⑦ 雇用づくり、担い手確保の厳しさ、等。

2 愛知県の政策とは:愛知県では、上記の問題を解決するために、森林の整備・保全の観点から、山地災害の復旧と予防(治山事業)、水源林対策、県土保全・水涵養及び森林経営、事業実施及び山村生活利便性向上、森林病虫害対策、あいち森と緑づくり事業、森林法の制度(保安林、林地開発許可制度)、県民参加・普及啓発・産業振興等を実施している。また、木材利用・供給の観点から、公共工事や県施設に県産

木材を用いたり、間伐材関係資材の認定を行ったり、花粉症対策(少花粉スギ、ヒノキ)や森林組合の育成強化や担い手確保(ガイダンスや緑の雇用担い手対策、研修)等を行っている。また、木を住宅等に使うことにより、新しい木を育て、それが成長し、さらに CO2 を固定する。例えば、住宅に用いるスギやヒノキは 1 本あたり 2000 円~3,000 円なので、材料費のみを考えるとけっして高くはない。また、日本の伝統的な家屋では、木は時間とともに腐るので取り替えることが前提となり、循環型である。

3 政策の例:あいちの森と緑づくり:「あいち森と緑づくり税」を導入し、個人一人あたり年間 500 円の税金を用いて、都市の緑化や緑の保全(ビオトープづくり、緑のカーテンや環境学習等)、里山林の保全・活用(森林調査・測量)、手入れ不足の森林再生(間伐や除伐、草刈り、公立小中学校での愛知県産木材使用の机・椅子の設置等)等の活動に役立てる。また、森林(人工林)整備では、間伐の実施や技術者の養成にも上記税金を役立てる。